

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立小泉小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV (V) (複数選択可)
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	全校生52名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科 道徳) ② 行事名 (学校へ行こう週間：保護者参観日) ③ その他 (学級活動 児童会活動 休み時間 朝の活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	運動を楽しみながら、体力向上をめざす児童の育成 『めざせ自己ベスト！小泉五リンピック～目標・努力・協力・友情・体力～』の実践を通して
5 取組内容	【朝のマラソンタイム】 【月曜日朝のさわやかタイム】   ○ 年間をととして実践している健康づくりの時間である。全校生での「マラソン」「ラジオ体操」に加え、眼輪筋を鍛える「eye eye 体操」・口輪筋を鍛える「あいうべ」体操（ともに学校保健委員会考案）をしている。さらに「さわやかチェック表」で自分の生活の見直しを行っている。 【4/21 スローガン決定】  ○ 健康委員会が全校生にスローガンを募集。委員会で話し合い、令和3年度のスローガンが決定した。

【小泉五リンピック①スポーツフェスタ】



種目は、新体カテスト種目の「50m走」「ボール投げ」、「下学年追いかけて玉入れ」「上学年ドッジボール」、そして「全校リレー」で行った。個人種目では自己ベストをめざして、団体種目ではチームごとに作戦を立てて運動を楽しむことができた。

【めざせレーザービーム：ボール投げ測定】

水曜日の昼休みは、全校生で遊んだり運動したりする「あそびっ子タイム」。「投げる力」向上をめざしボール投げの練習をしたり記録測定をしたりした。



【オランダ給食】



郡山市の姉妹都市オランダの文化を知るきっかけとなったオランダ給食。国際交流員 ヨースト クラルト 氏 より、映像を通して、オランダの生活や文化を伝えていただいた。

【オリンピックトーチ校内展示】

本物のオリンピックトーチに、子ども達も興味津々。これから始まるオリンピックへの関心も高まった。



【小泉五リンピック⑤小泉マラソン】



毎朝のマラソンの成果を試す日。子どもたち一人一人が目標タイムを決めてレースに臨んでいた。誰一人途中棄権することなく、全員が完走することができ、ゴール後は、互いを称え合う姿が見られた。

【ラグラグビー教室】

講 師 福島県ラグビーフットボール協会

金子 浩 氏 増田 達也 氏

河野 正俊 氏 紺野 宗作 氏



上学年と下学年に分かれての『ラグラグビー教室』。それぞれの発達段階に応じてご指導いただいた。ラグやラグビーボールを使った運動もあり、新しい競技に目を輝かせて取り組む姿が見られた。



6 主な成果

- 年間を通して、児童が自分自身の健康や体力に関心をもち、楽しみながら運動する機会と運動量を確保できた。
- 児童が自ら目標に向かって努力する経験を何度も積み、満足感や充実感を味わった。また、挫折感を味わっても、新たな目標に向かって進もうとする姿が見られるようになった。
- 児童に「運動の楽しさを味わうこと」や「体力向上に目標に向かって努力すること」「友だちと協力するなかで友情を育むこと」等、『小泉五リンピック』の意味や価値が根付いてきて、児童自身が次年度に向けて目標をもつようになった。

7実践において 工夫した点 (事業の特色)	○ 学校スローガン「一緒に、一所懸命」のもと、本校が以前から取り組んできた健康教育(朝のマラソン・さわやか健康チェック・さわやかタイム・あそびっ子タイム等)と縦割り教育、オリンピック・パラリンピック教育を一つにして『小泉五リンピック』を実施した。
8主な課題等	● コロナ禍のもと、運動量の確保とともに、体力向上につながるより効果的な運動の仕方を検討していきたい。
9来年度以降の 実施予定	○ 年間をとおして、体育科だけでなく、児童会活動等の特別活動や各教科にわたって学習活動の場を設定し、教科横断的な学習を展開していく小泉小ならではのカリキュラムマネジメントを確立していきたい。 ○ 運動量の確保とともに、体力向上につながる取組を推進していきたい。